

# 平成 26 年度東京大学市民後見人養成講座 シラバス

## 1. 座学（74 時間）

<b>1. オリエンテーション</b>		
講座全体ならびに実習を円滑かつ適切に進めていくためのオリエンテーションを、講座の中で適宜、実施する。		

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
<b>講座のオリエンテーション(開講の辞)</b> 坂田一郎(東大政策ビジョン研究センター センター長) 飯間敏弘(東大政策ビジョン研究センター 研究員)	80	講座の開講のご挨拶、ならびに講座を円滑に進めていくためのオリエンテーション（講座の内容や留意事項、講座の進め方等に関する具体的な説明や事務連絡など）を行う。
<b>実習のオリエンテーション I・II・III</b> 金原和也(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)	160	実習の円滑な進捗と適切な取り組みを進めていくためのオリエンテーション（実習の各課題の内容や留意事項、実習の取り組み方等に関する説明や事務連絡など）を行う。

<b>2. 日本の高齢社会</b>		
日本の高齢社会の現状と、超高齢化の時代における地域社会のあり方について学ぶ。		

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
<b>日本の高齢社会 I(高齢社会の現状)</b> 森田朗(国立社会保障・人口問題研究所、東京大学名誉教授)	80	日本の高齢社会の現状（高齢化率や認知症高齢者の人数の推移、人口動態、社会保障財政の現状、およびそれらの将来の見通しなど）について理解する。
<b>日本の高齢社会 II(高齢社会のあり方)</b> 牧野篤(東大大学院教育学研究科 教授)	80	超高齢化の時代における地域社会のあり方（共生社会や地域的互助に基づく社会の実現、高齢社会の理念型など）について学ぶ。

<b>3. 成年後見の制度・法律</b>		
法定後見と任意後見に関する制度や法律について基本的な事柄を一通り理解するとともに、市民後見の役割や理念などについて学ぶ。		

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
市民後見概論 齋藤修一(品川成年後見センター 所長)	80	市民後見の役割・理念、社会規範や倫理、期待される市民後見人像（市民後見の特徴や強み等）について理解する。
法定後見制度Ⅰ・Ⅱ 高村浩(高村浩法律事務所 弁護士)	160	法定後見制度について、各類型の特徴や違い、後見人が有する権限の内容、財産管理や身上監護に関する事務、後見報酬、後見登記などについて学ぶ。
任意後見制度 遠藤英嗣(蒲田公証役場 公証人)	80	任意後見制度について、制度が利用される状況やその手続きの流れ、任意後見契約の内容、法定後見との相違点、任意後見に付随して結ばれることが多い契約の内容などについて学ぶ。

#### 4. 疾病や心身の状況の理解

高齢者の老化や疾患などといった心身の状況、ならびに認知症、精神・知的障がいなどに関する医学的な基礎知識について学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
高齢者および認知症の理解 秋下雅弘(東大大学院医学系研究科 教授)	80	高齢者の老化や疾患、生活機能などについて理解するとともに、認知症に関して、その種類(アルツハイマー型、脳血管性など)や症状、特徴などについて学習する。
知的・精神障がいの理解 佐多範洋(海上寮療養所 医師)	80	知的障がいおよび精神障がいについて、障がいの種類(ダウン症や統合失調症など)やその症状、特徴などを医学的観点から学ぶ。

#### 5. 対象者の理解と接し方

対人援助に関する理念や基礎的な技術についての理解を養うとともに、高齢者や障がい者の普段の住まいや暮らしの態様などについて学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
対人援助の基礎 金原和也(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)	80	自己洞察や自己覚知の手がかりとする自己分析を体験として行う。また、対人援助の基礎知識として、カウンセリングや面接技法などに関する主な理論について学ぶ。

対象者の理解と接し方Ⅰ(認知症高齢者) 田村麻美(社会福祉法人聖風会)	80	認知症高齢者等と接する上で必要な「言語的」および「非言語的」コミュニケーションについて理解する。それを踏まえて、認知症高齢者等と接する上で留意すべき事柄について学ぶ。
対象者の理解と接し方Ⅱ(知的障がい者) 山崎豊(NPO 法人障害者の地域生活をひらく会 代表理事)	80	知的障がいのある人と接する上で必要な「言語的」および「非言語的」コミュニケーションについて理解するとともに、知的障がいのある人を支援する仕方や留意すべき事柄について学ぶ。
対象者の理解と接し方Ⅲ(精神障がい者) 中尾清隆(社会福祉法人創志会 つくばライフサポートセンター)	80	精神障がいのある人と接する上で必要な「言語的」および「非言語的」コミュニケーションについて理解する。それを踏まえて、精神障がいのある人を支援する上で留意すべき事柄について学ぶ。
高齢者や障がい者の住まい・暮らしⅠ(高齢者) 浦田慶信(株式会社生活科学運営 代表取締役社長)	80	認知症高齢者や要介護高齢者など、何らかの支援を必要とする高齢者について、普段どのような住まいで(高齢者向け施設の種類や有り様等)、どのような生活を過ごしているのか、ということについて学ぶ。
高齢者や障がい者の住まい・暮らしⅡ(障がい者) 川田雪野(社会福祉法人 県央福祉会)	80	知的障がいや精神障がいのある人が、生活のために利用している「共同生活援助」(グループホーム)、「共同生活介護」(ケアホーム)等の施設について、その目的や機能について学ぶ。さらに障がいのある人の職業生活の自立を支援する就労支援についても学ぶ。

## 6. 後見関連制度・法律

年金、医療・介護保険、生活保護制度など、成年後見に関連する制度について、その内容や施策の展開のあり方などを学ぶ。

科目名および講師(所属)	時間(分)	科目の内容
後見関連制度・法律Ⅰ(社会保障制度全般) 樽見英樹(厚生労働省 年金管理審議官)	80	日本の社会保障制度全般(社会保障財政の現状、社会保障政策の歴史・変遷、現在の社会保障政策の概要と展開のあり方など)について理解する。
後見関連制度・法律Ⅱ(医療・介護保険、生活保護) 水谷忠由(厚労省 認知症・虐待防止)	80	日本の公的医療制度、介護保険制度についての概要(保険の仕組みや保険財政の現状、利用可能なサービス等)、ならびに生活保護制度の概要(申

対策推進室長)		請に係る要件や手続、保護の内容等)について学ぶ。
後見関連制度・法律Ⅲ(年金制度) 諸星裕美(東京都社会保険労務士会 常任理事)	80	日本の公的年金制度について、年金の制度的な仕組み(年金の種類や受給要件など)や年金財政の状況、年金に係る手続やその方法などについて理解する。
後見関連制度・法律Ⅳ(介護保険制度) 保坂由枝(さいたま市介護支援専門員 協会 主任介護支援専門員・看護師)	80	公的介護保険制度について、介護保険の仕組みや保険財政の現状、介護サービスの内容、申請および給付に係る手続やその仕方などについて学ぶ。
後見関連制度・法律Ⅴ(税務申告) 有賀靖典(有賀靖典税理士事務所 税 理士)	40	税務申告について、特に確定申告を中心に、制度の概要(申告の要件や各種控除の条件など)や申告の手続きの仕方や留意点などについて理解する。
後見関連制度・法律Ⅵ(民事信託) 遠藤英嗣(蒲田公証役場 公証人)	80	後見制度を補完し、これと併用し、あるいは代替しうる制度である民事信託制度について、その概要(民事信託の概念や仕組み、利用する際の条件や留意点など)を学ぶ。
障がい者の支援と施策Ⅰ(障害者総合支援法等) 伊藤未知代(厚生労働省 障害福祉専門官)	80	障がい者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律である「障害者総合支援法」を中心に、関連する制度や施策について学習する。
障がい者の支援と施策Ⅱ(障がい者虐待防止等) 曾根直樹(厚生労働省 虐待防止専門官/障害福祉専門官)	80	障がい者への虐待の防止、障がい者の養護者に対する支援等に関する法律である「障害者虐待防止法」をはじめとする各種の制度・施策について学ぶ。

## 7. 後見の実務と事例

現在、各地域において後見活動を行っている後見人等(市民後見人や専門職後見人など)から、実際の後見実務のあり方や具体的な事例について学ぶ。

科目名および講師(所属)	時間(分)	科目の内容
後見人の実務Ⅰ・Ⅱ 中道基樹(ライフサポート東京 行政書士)	160	後見人が実際に行う業務の具体的内容(後見等開始申立、本人の財産管理や身上監護に係る事務、後見事務報告書等の作成や死後事務の実施方法など)について理解する。

<p><b>後見活動の事例Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</b></p> <p>金原和也(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)</p> <p>廣末志野(行政書士廣末志野事務所 行政書士)</p> <p>木原道雄(木原道雄司法書士事務所 司法書士)</p>	240	<p>現在、実際に活動している親族後見人や市民後見人、専門職後見人などから、日頃行っている後見業務や実務のあり方や、本人の生活等への支援の態様、直面している課題などについて学ぶ。</p>
---	-----	---

<p><b>8. 民法の基礎</b></p> <p>民法について、後見人として活動していく上で必要となる基本的な分野（財産法と家族法の基礎）を一通り学習する。</p>
---

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
<p><b>財産法の基礎(契約、代理)</b></p> <p>岩佐博行(司法書士法人あすかフロンティア 司法書士)</p>	80	<p>後見と関連が深く、後見業務を行う上で必要となる財産法の基本的な事柄(特に契約や代理の概念や法律の概要など)について理解する。</p>
<p><b>家族法の基礎Ⅰ(相続・遺言)</b></p> <p>岩佐博行(司法書士法人あすかフロンティア 司法書士)</p>	80	<p>後見人として業務を行っていく上で必要となる家族法の基本的な事柄(特に相続や遺言に関する法律の概要や留意点など)について学ぶ。</p>
<p><b>家族法の基礎Ⅱ(遺産分割)</b></p> <p>片岡武(横浜家庭裁判所 裁判官)</p>	80	<p>後見人として業務を行っていく上で必要となる家族法の基本的な事柄(特に遺産分割に関する法律の概要や留意点など)について学ぶ。</p>

<p><b>9. 後見関連機関の役割と実務</b></p> <p>後見と関係が深い各種機関（市民後見NPO、家庭裁判所、消費者保護機関、金融機関など）の役割と実務について学習する。</p>
--

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
<p><b>市民後見NPOの役割と実務Ⅰ(現状と課題)</b></p> <p>宮崎進一(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)</p>	80	<p>市民後見NPOの理念や役割、その活動状況や実態、ならびに今後の課題などについて理解する。</p>
<p><b>市民後見NPOの役割と実務Ⅱ(立ち上げの実務)</b></p> <p>中田均(市民後見センターさいたま 理事長)</p>	80	<p>市民後見NPOの実務・運営のあり方や実際の業務の態様(特に市民後見NPOを設立する際の手続きや実務のあり方など)について学ぶ。</p>

<b>市民後見 NPO の役割と実務Ⅲ(実務と運営)</b> 土井雅生(NPO 法人 成年後見なのはな 代表理事)	80	市民後見 NPO の実務・運営のあり方や実際の業務の態様(特に市民後見 NPO を立ち上げた後、法人の経営や意思決定のあり方、法人の財務・運営の方法など)について学習する。
<b>後見関連機関の役割と実務Ⅰ(家庭裁判所)</b> 北野俊光(福家総合法律事務所 弁護士)	80	家庭裁判所における後見担当部(審判官、調査官、書記官等)の役割や家裁の手續・運用等について具体的に学ぶ。
<b>後見関連機関の役割と実務Ⅱ(消費者保護機関)</b> 上月とし子(東京都消費生活総合センター 消費者啓発員)	80	後見活動に関係の深い機関である消費者保護機関(消費生活センター等)について、その業務のあり方や役割、実際に扱っている事案などについて学習する。
<b>後見関連機関の役割と実務Ⅲ(金融機関)</b> 川津美加子(西武信用金庫 事務支援部副部長)	80	後見業務を行っていく上で非常に関わりの深い機関である金融機関について、後見事案に関する業務のあり方や手続きの方法、具体的な事案などについて学ぶ。

## 10. 市町村・地域の現状と事例

地域における後見人等の活動を支援するための後見関連事業や権利擁護事業への行政や社協などの取り組み、および地域福祉の展開の状況などについて学習する。

科目名および講師 (所属)	時間(分)	科目の内容
<b>市町村・地域の現状と事例Ⅰ(市町村の取り組み)</b> 東啓二(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)	80	後見人の活動への支援や成年後見制度利用の支援などの事業(成年後見制度利用支援事業など)に関する市町村の体制や施策の実施状況などについて学習する。
<b>市町村・地域の現状と事例Ⅱ(地域福祉)</b> 武川正吾(東大文学部・大学院人文社会系研究科 教授)	80	後見と非常に関係が深い地域福祉に関する活動や施策等について、その歴史や沿革、現在の制度の内容や実施状況などについて学ぶ。
<b>市町村・地域の現状と事例Ⅲ(自治体・社協の取り組み事例)</b> 佐々木佐織(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)	80	後見に関連する施策への自治体や社協の取り組みについて、具体的な事例を紹介することを通じて、それらの施策の内容や実際のあり方などについて理解する。
<b>市町村・地域の現状と事例Ⅳ(社協の取り組み)</b> 中島修(文京学院大人間学部 准教)	80	地域の認知症高齢者等を始めとする人々の生活を支援し、その権利を擁護するための事業(日常生活自立支援事業など)に関する社会福祉協議会の

授)		取り組みの状況について学ぶ。
市町村・地域の現状と事例Ⅴ(地域包括ケア) 東内京一(和光市 保健福祉部部長)	80	地域の高齢者等の生活を支援するために進められている、医療・介護・福祉等のサービスを包括的に提供するための体制や制度的仕組みについて理解する。

<b>11. 成年後見各論</b>		
後見に関連するより具体的で発展的な事柄（未成年後見、諸外国の後見制度、後見実務の実態など）について学習する。		

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
成年後見各論Ⅰ(未成年後見) 木原道雄(木原道雄司法書士事務所 司法書士)	80	後見制度の一種である未成年後見について、その法律や制度の内容、成年後見制度との関係、具体的な事例などについて学習する。
成年後見各論Ⅱ(後見実務の現状) 飯間敏弘(東大政策ビジョン研究センター 研究員)	80	我が国において行われている後見実務の現状や実態(後見人の社会的属性、財産管理や身上監護などの業務の態様、後見報酬のあり方など)について理解する。
成年後見各論Ⅲ(諸外国の成年後見制度) 小池信行(山田二郎法律事務所 弁護士)	80	日本の後見制度と比較し相対化することを通して後見の理解を深めるために、諸外国の後見制度に関する法律や制度の概要などについて学ぶ。

<b>12. 後見実務の演習と討論</b>		
後見活動（後見事務や支援計画等）のあり方について、受講生同士がグループワークを通じて議論し、それを踏まえながら、後見実務に関する演習を実施する。		

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
グループワークⅠ 飯間敏弘(東大政策ビジョン研究センター 研究員)	40	グループワークを通じて、各々が異なる意見を交換する中で、自己の価値観を相対化し、後見人として適切に対処できるような経験を身に付ける。
後見実務の演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(グループワークⅡ・Ⅲ) 飯間敏弘(東大政策ビジョン研究センター 研究員)	240	後見の事例に関して、グループワークによる討論を行い、それを参考にしつつ、後見実務(後見等開始申立の書類作成等)に関する演習を実施する。

13. 総括的講義		
講座における総括的な講義として、理解度確認テスト、実習課題のプレゼンテーション、後見の展望と課題に関する検討などを行う。		
科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
理解度確認テストⅠ・Ⅱ 飯間敏弘(東大政策ビジョン研究センター 研究員)	160	各講義についての理解度を確認し、受講生が自身の到達度を自覚し、学習の動機付けを高めるために、講座の中間と後半に理解度確認テストを実施する。
実習課題の成果発表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 金原和也(東大政策ビジョン研究センター 専門職員)	240	実習として取り込んだ課題(地域の社会資源の把握や啓発・相談活動など)について、その成果を受講生自らがプレゼンテーションする。
成年後見の展望と課題 新井誠(中央大学法学部)	80	後見の今後の展望と課題に関して、後見制度・運用の問題点やその解決策、後見の将来の方向性や今後のあり方などについて学ぶ。

## 2. 実習（50 時間）

1. 必修課題		
実習の必修課題として、施設体験実習、後見実務演習、地域の社会資源の把握といった実践的な課題に取り組み、後見人として活動するための経験を身に付ける。		
科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
施設体験実習 金原和也（東大政策ビジョン研究センター 専門職員）	600	実際に施設介護等の現場を体験することによって、対象者への接し方や支援のあり方などについて具体的・実践的に身につける。
後見実務演習(後見開始申立書等の作成) 飯間敏弘、金原和也（東大政策ビジョン研究センター）	600	後見等開始申立書、申立事情説明書、支援計画書など、後見等開始申立等に係る書類を実際に一通り作成してみることで、後見業務の実務や技術などを身につける。
地域の社会資源の把握 飯間敏弘、金原和也（東大政策ビジョン研究センター）	600	地域の社会資源(行政、社協、医療・介護施設など)の後見に関連する活動の取り組みや対応の状況等について、フィールドワークを通じて調査し、把握する。

## 2. 選択課題

実習の選択課題として、あらかじめ設定された複数の課題の中から、各受講生が任意に選択した上で実施する。

科目名および講師（所属）	時間 (分)	科目の内容
<b>実習の選択課題</b> 飯間敏弘、金原和也（東大政策ビジョ ン研究センター）	1200	実習の選択課題として、次の中から、受講生が任意に選択した課題を実施する。 その選択課題は、①市民後見 NPO の立ち上げ、②親族後見等申立て、③啓発・相談活動、④業務上の課題に関する活動、⑤エンディングノートや親心の記録、⑥受講生によって任意に設定された課題、である。